園のおたより

第　８　号

令和元年１１月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

宝物

園長　飯泉　健司

忍者、お姫様、テレビのヒーロー……。子どもたちは様々な存在に変身します。その際、その存在を象徴するような物を身につけることが多くあります。忍者の鉢巻き、お姫様のスカート、ヒーローの武器等です。これらの物を持つことが、それぞれの役柄になりきるためには必要なアイテムなのです。

同じような考え方が、日本の皇室にもあります。三種の神器（八咫鏡・八尺瓊勾玉・草薙剣）を持つ者が天皇になるという考えです。鏡は光を反射させることから太陽、さらには天の中心にいる天子を表します。勾玉は魔除け、剣は武力の象徴。

特に重要なのは天子の象徴である鏡です。鏡の霊力（天照大神の力）を持つことによって天皇になります。天皇になろうとする者は鏡の霊力を我が物にしようとします。

天智天皇と天武天皇の兄弟が、鏡王の娘・額田王をめぐって争ったのも、一説に鏡の力＝天子の力を奪い合ったからだともされています。

三種の神器の中で紛失の伝えが付きまとうのが、草薙剣です。古くはヤマトタケルが熱田神宮に置いてきた、天智天皇の時代には新羅のお坊さんが盗み出した、源平合戦の折に壇ノ浦に沈んだ等、天皇家から紛失する伝えが多くあります。剣は鍛錬に時間がかり、製作者の名前を記入します。そこで人の心が籠もり、さらには剣自身が心を持ち、意思をもって行動するという伝承が生まれました。草薙の剣も同様に意思をもつと考えられたようです。草薙の剣はヤマタノヲロチから発見されました。天皇家であっても制御できないパワーをもっていたのでしょう。

三種の神器を持つ者が天皇になるわけですが、持てば天皇になれると言うことではありません。天皇に相応しい心・霊魂（天皇霊）を持つ者が三種の神器を所有できるのです。その天皇霊を身につけるのが、古代の大嘗祭だったとも言われています。

子どもの宝物も、その子に相応しい心と連動しているのでしょう。

しなやかに

副園長　清水　愛子

今年度本園では、「しなやかな心と体を育む」を主題に研究を進めてきました。研究の過程で、そもそも「しなやか」とはどんなことだろう。それぞれが大まかなイメージで捉えるのではなく、共通理解を得たいと考え合わせてみました。

「堅い」ということはしなやかとは違うし、「柔らかい」というのとも違う。例えば柳の枝は、強い風に吹かれた時に、大きく揺れることができて、しかし決して折れることはない。この柳の枝ように「柔らかさ」と「強さ」の両面を合わせもつものこそ、「しなやか」なのではないかと。

そして「柔らかさ」を、温かな人間関係と豊かな環境の中で育まれる安心感や意欲をもって動くことのできる力、「強さ」をたとえ困難な状況であっても乗り越えていける力と捉えることにしました。

その上で「しなやかさ」は、洗練された体の動きや心の在り方といった「美しさ」にも通じるものだという考えにも至りました。

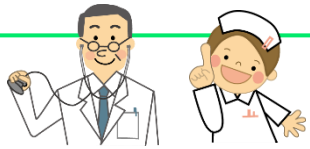
この度、全国学校体育研究大会（１１月１日）と、本園主催の研究協議会（１１月６、７日）でこの研究成果をお示しする機会を得ました。

総勢２００名に届くほどの多くの参会者がありましたが、その方々は、子どもたちがこの柔らかな芝生の上で自分のしたい遊びに心ゆくまで没頭する姿、友達と関わり、楽しみながら遊びを進めていく姿、少し難しい技にも挑戦し続ける姿を目の当たりにし、本園の研究を大いに価値づけてくださいました。

したいことを「それいいね、がんばれ」と温かく支え励ます教師の存在がまずあって、気の合う仲間と楽しみながら、躊躇なくやってみようとできる環境。そのような人や環境に囲まれた日々の積み重ねが、「柔らかさ」と「強さ」の両方を育み、「しなやかさ」そしてひいては「美しさ」に繋がっていくということを、私たちもこの研究を通して実感したところです。

ここに通う７９名のお子さんたちが、この激動する社会の中で、柔らかく、しかし強かに生き抜いて行けるよう力を授けたいと、そのために頑張りたいと改めて思った次第です。

クラスだより



１くみ

「ごっこ遊びの中で」

今月の１組は、ごっこ遊びが盛り上がり、お家ごっこに、レストランごっこ、お風呂ごっこ、おばけごっこ等、色々な役になりきって遊ぶ様子がありました。ある日は、病院ごっこが盛り上がりました。私は子どもたちから医者役を命じられ、椅子にどっしりと座り、患者役の子どもたちが来るのを待ちました。すぐにＡちゃんが来て、「ちょっとお腹が痛いので診てください。でも苦い薬と注射だけは絶対に嫌なので気を付けてください」と言いました。「それでは今日だけ特別に、甘いケーキのお薬を差し上げましょう」と返すと、「やったー！ここはなんていい病院なんだろう」と、満面の笑みで戻っていきました。

次はＢ君の番でした。ライオンのぬいぐるみを抱え「すいません。この子どうしても勉強がいやだって、毎日遊んでばかりいるんです。どうにかしてください」と言いました。「それならいい方法がありますよ。今日から好きなだけ遊ばせてあげましょう」と返すと、「それもそうですね！ありがとう」と、どこかすっきりした表情で帰っていきました。どの子も役になりきりながらも、その子らしさがにじみ出ているのを微笑ましく感じました。

最後に来たのは、Ｃちゃんでした。「足が痛くてどうしても歩けないので、病院からお家まで抱っこしてほしいんです」と言いました。私は「そういう時もありますよね。お家はどこですか」と言い、Ｃちゃんを抱っこして、少しの間室内を散歩することにしました。Ｃちゃんが元々遊んでいた場所に着くと、私から離れて満足そうに自分の遊びへと戻っていきました。きっと、Ｃちゃんが求めていたことは病院ごっこの相手としての私ではなく、ゆっくりと抱っこしてもらう時間だったのだろうなと感じました。１組なりに、自分のやりたい遊びを思うままに楽しめるようになってきており、保育者の手を離れつつあるように感じていますが、ゆったりと甘えたい時もあるのでしょうね。一人一人の些細な気持ちを汲んであげられる存在でありたいと感じています。

２くみ

「友達と一緒に」

秋も深まり、カリンが大きく実り、いい香りがしています。子どもの手に乗るくらいの大きさと、少し重さのあるカリンが大活躍です。かごに入れて持ち歩いたり、宝物にしたりして遊んでいます。甘い香りを感じながら嬉しそうに遊ぶ姿が見られます。

木に実っているカリンに、手を伸ばしたら届きそうな気がして伸ばしてみるけれどなかなか届きません。でも取ってみたい気持ちがたくさんあり、「ねえ。どうやったら取れるかな？」「ビールケースを重ねたらいいかもね」「やってみよう」と、友達と話しながら毎日挑戦していました。この姿から、友達と一緒に考えたり試したりすることの面白さを味わっているなと感じました。

同時に、「友達が落ちないように守ってあげよう」とビールケースを押さえる子、「別な方法はないかな？」と長い棒を探す子、これ以上は危ないと感じて「今日はもうやめよう」と言う子・・何人かで一緒に１つのことに取り組みながらいろいろな視点で考える姿が見られました。

このように言葉でのやりとりが増えて、自分の言いたいことを伝えられるようになり、友達との関わりが多くなったりしているからこそ、思いがぶつかることもあり、けんかも増えています。「思いを伝えてみたら友達が怒った、どんな気持ちだったのかな？」と振り返って考える姿、「伝えてみたら今度は友達が笑った、自分も嬉しい」と喜ぶ姿が見られます。そのような一つ一つのことから友達との関わり方を学んでいると捉え、これらを積み重ねることを大切にしたいと思っています。

遊びでは、ラグビーをしたり、聖火リレーなど、オリンピックごっこを楽しんだりしています。「オリンピックには開会式があるよね」「聖火ランナーもいるんだよ」と知っていることや、やりたいことを学級のみんなに話して、みんなと一緒に決めたことを、実現しているところです。これから、４歳児なりのオリンピックというイメージを膨らませて自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりしながら、友達と同じようなイメージをもって、遊びを進める楽しさを味わえるように援助していきたいと思っています。

３くみ

「坂の面白さ」

子どもたちにとって（大人になってもですが)、「坂」があることは、それだけでワクワクする遊びのきっかけになるようです。これまでも、滑り台を滑ってみたり、水を砂場や園庭に流してみたり、いろいろな「坂」を生かした遊びに取り組んできました。

３組の保育室を出ると、近くに大きな築山があります。その頂上から北に向かって、木製の斜面が設置されています。今月は、その斜面に園庭用のシート（ござ）を敷き、１人がそこに座り、友達が下からずるずると引っ張りながら滑り降りるという遊びが始まりました。そりに見立てて「そり滑り台」と呼び、役割を交替しながら楽しんでいました。数日後、今度はシートではなく段ボール箱を使ってみようというアイディアが出てきました。試していく中で、勢いがつくようになると、下った部分にビールケースを並べてストッパーのようにしたり、砂場から砂を運んできて「滑り止め」と言って斜面に撒いたりすることも見られました。その楽しそうな雰囲気につられて、列になって順番待ちをすることもありました。

今月の中頃からは、少しずつ冬に向けて室内の遊びを充実するため、模型用タイヤや空き箱などを使って、車を作ることも始めています。自分の車ができると早速、遊戯室で試運転です。大きな箱積み木や板積み木を組み合わせてコースを作っていきますが、その多くはスタート地点を高くして、坂を作り、傾斜の勢いで進ませる形になっています。下った先には、トンネルがあったり、一本橋のようになっていたり、洗車場を通過したりと、いろいろなコースができています。

坂の傾斜を生かして遊ぶことは、物の仕組みに対する関心をもつ姿でもあります。いろいろな仕組みに関わり、それを生かしながら試して遊ぶ面白さを、引き続き大切にしていきたいと考えています。